

テーマ 「説明する活動で育むコミュニケーション力」

1. テーマの設定の理由

多くの生徒は、画家・芸術家になるために美術の授業を受けている訳ではない。

美術教育は、美しいものを美しいと感じ取れるちから、あるいは美しさを表現するちからを付けるのがベースだが、その技能を通して得ることのできる能力は、コミュニケーションの能力だと考える。

コミュニケーション能力は、義務教育を終えて社会で生活していく「生きる力」としての人間形成に最も重要な要素のひとつであるからだ。

美術は多くの場合、創造者で有る作家（本人）だけでは成り立たない。

鑑賞者である他人がいてこそ、作品に対する評価が生まれ、わかり合い、認め合い、美しさの共有ができる。

美術科学習活動における表現の中で、例えば一般的に以下のような事が多い。

- ・芸術作品や文化財との出会い。味わうこと、鑑賞することから、より深い解釈活動を行うことができる。
- ・造形を通して、感性に裏打ちされた形での批評的な言語を生み出すことができる。
- ・自分やクラスメイトの作品鑑賞を通して、自己理解、他者理解を多面的に行うことができる。

それらを深めるためのキーワードとしての「説明する活動」に重きを置いて、このテーマ設定とする。

また美術における「言語活動」とは、単純に言語を活用した話し合いや文字によるコミュニケーションだけとは限らない。

作品制作を通じて色や形に表す活動は、制作を通して込めた思いや希望を内に含み、より豊かで質の高い作品へと昇華する。そこには単純に言葉にできない情報を含んでおり、それ以上の多くのコミュニケーション言語が生まれる可能性を秘めているのである。

2. 本年度の研究について

① 美術科で考えている「説明する活動」

本校美術科では作品制作または鑑賞を通して得ることのできる、人と人との有機的なコミュニケーション能力の高まりを核に考えている。

授業では、班活動による制作の助け合いやクラスで行うプレゼンテーション、鑑賞活動を通して独りから班へ、またクラス全体、掲示や文化祭などの全体鑑賞を通じての学年全体や全校生徒へと、コミュニケーションを段階的に繋いで広げる活動を行っている。

箇条書きにすると、次の通りである。いずれも各題材において共通。

- ・導入後のアイデアスケッチ時（感受・表現）

題材やテーマから、自分のイメージを湧かせ、それを他者が理解できる形でワークシート（エスキース）に残す。

- ・制作途中の都度都度（理解・伝達）

実習を通して生まれたアイデアや工夫を、グループ内で伝え合い、共通のものとする。

- ・作品のプレゼンテーション（解釈・説明）

自分の作品の制作意図や途中経過、がんばった点、工夫した点、上手く行った点を、きちんと理解し、プレゼンテーションという形でアピールする。

・完成した作品の相互鑑賞（評価・論述）

作品鑑賞を通して、第三者に自らの価値観を伝える。

作品鑑賞を通して、第三者の意見を理解し、新たな価値観と向き合い、認め合う。

また本年度のテーマである「説明する活動」について美術科として一番に発揮できるのは、鑑賞活動の際（制作途中の鑑賞活動も含む）の一連の流れの中にあると考える。説明する活動の手順は以下の通り。

- (1) テーマや素材、または資料などを元に、作品製作の基礎となるアイデアに至るまでの経緯を、理解し文章にまとめる。
- (2) 作品制作過程を振り返り、「がんばった点、工夫した点、上手く行った点」等を見出し、文章にまとめる。
- (3) クラスメイトに自分の作品を見せながら説明する中で、自らの作品制作の再確認、再発見をする。
- (4) 発表者の発表を聞いた鑑賞者が、発表の中から、より優れている活動やアイデアなどに気付き、全体の場で発表する。
- (5) 気付きを全体の場で発表することにより、気付かなかった生徒にも気付きの機会を与え、全体としての鑑賞活動を高める。

本年度はその延長として、また中学校の美術科教育の集大成として、学校を出た環境「地域」との繋がりを持つ機会を作ることにした。

学校内で留まるのではなく、保護者や地域の方々の目に触れる、あるいはコミュニケーションの取れる形での作品製作および展示を行うことで、より発展的な効果を期待できるものとする。

② 「説明する活動」をさせるときの「約束事」「ルール」「セオリー」「手順」など。

美術は多くの場合、創造者である作家（本人）だけでは成り立たない。鑑賞者である他人がいてこそ、作品に対する評価が生まれ、わかり合い、認め合い、美しさの共有ができる。

作家と鑑賞者を結びつける「コミュニケーション」の力を発揮できる技能が「説明する活動」と「他者理解・解釈」であるとする。

コミュニケーション力を高めるための学習活動として「説明する活動」を重視して授業構成にあたっている。

③ 説明する活動の実践例

学習内容	活動の具体例
鑑賞活動 (制作途中の鑑賞活動も含む)	自分の作品の制作意図や途中経過、がんばった点、工夫した点、上手く行った点を、きちんと理解し、プレゼンテーションという形でアピールする。 作品鑑賞を通して、第三者に自らの価値観を伝える。 作品鑑賞を通して、第三者の意見を理解し、新たな価値観と向き合い、認め合う。

3. 成果と課題

この一年間、各単元を通じて説明する活動を特に強化しておこなった。

具体的には鑑賞活動を行う際に、

- (1) 自分の意見をもれなく伝えることができるように、事前に何を伝えたいのかを整理する時間を確保すること。
- (2) 説明してくれたクラスメイトの発言に対して、きちんと理解する態度をとるための手立てとして、質問や感想など、発表者に対して返事を返す活動を行うこと。

この活動により生徒たちは、自分の伝えたいことを事前に頭の中、または文章に変換して理解することができるようになった。

コミュニケーション能力を伸ばす手立てとして、これらの活動は有用だったと思われる。

課題としては、やはり時間数の問題が大きい。

美術科は、実技教科なのでひとつの制作にとっても時間がかかる。1年生は週1.3時間、2&3年生は週1時間と、活動時間数がかなり短い。

ただでさえ、時間がかかる教科なのに、時間数が少ない状況で、さらに説明する活動を強化するために鑑賞に掛ける時間の割合を増やしたため、制作の活動はさらに圧迫せざるを得なかった。

制作時間が短くても、有意義で達成感のある課題の開発や、授業内で準備時間を極力短縮するために授業時間外での教材の準備などを行った。しかし、学校作品展への出展ができる程度の、時間をかけた作品を作らせることが出来なかったのが残念である。

説明する活動を充実しつつ、時間をかけた制作ができるように、工夫していきたい。



実践1 3年生

授業者 飯村 浩 晃

1. 単元名 インスタレーション

「地域・社会へ向けて、僕たちのメッセージをアートに乗せて発信しよう！」

2. 単元観

当該学年3年生は小学校からの図工・美術の締めくくりの学年である。計9年間の図工美術教育の集大成として、全体で取り組むインスタレーションに参加させたい。

また来年には卒業し義務教育過程を経て社会へ出る立場の3年生達。その満ち溢れた若いエネルギーを、これから出会う社会と結び付けていくために「アートを通して地域とつながる活動」を学びの題材とした。

計9年間の図工・美術教育で得た力、若いエネルギーや可能性を、色や造形に表してもらいたいと考えている。

本校研究テーマである「説明する活動」に関しては、制作のあらゆる過程を通して、対話、討議、説明をする場面がある。自分の作品の制作意図や途中経過などを他者に説明したり、他者の説明を受けて自分なりに解釈し別の他者に説明することで、相乗的な学びの場を作っていきたい。

3. 単元の指導目標

- ・ インスタレーションの意味を理解し、自分と学校と社会の繋がりを感じて積極的に参加できるようにする。
- ・ 自分なりのテーマに沿った身体のポーズや色、装飾をできるようにする。
- ・ テーマに応じた設置場所を意識して、意識的に作品を設置することができるようにする。
- ・ クラスメイトの制作途中の作品を鑑賞し、今後の制作に生かせるアイデアを見つけ出すことができるようにする。

4. 単元の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	1 アートを通して自分と社会との繋がりを意識して制作に臨むことができる。 2 学校から社会に向けてのイメージを、元に、自分なりのテーマを設定することができる。
イ 発想や構想の能力	1 全体テーマに応じて、作品展示場所を構想することができる。 2 自分のテーマに沿って、身体のポーズや色や装飾で構想することができる。
ウ 想像的な技能	1 自分が段ボールを丁寧に裁断したり、色や造形に表すことができる。 2 テーマを意識しながら作品を効果的に設置することができる。
エ 鑑賞の能力	1 鑑賞を通してインスタレーションを知ることができる。 2 クラスメイトの制作途中の作品を鑑賞し、今後の制作に生かせるアイデアを見つけ出す事ができる。 3 完成したインスタレーション作品の鑑賞を通して、自分達とクラスメイト、地域・社会との関係を再確認し、社会に出る希望や期待をもつことができる。

5. 単元計画 全16時間 (◎は本時で8時間目)

学習内容	ねらい	中心となる言語活動	評価規準
現代アート、インスタレーションについて知る。 (3時間)	・自分のことと捉え積極的に、どんな活動がしたいか、どんなテーマでしたいかを、アンケートに答えることができる。	・自分なりのイメージをアンケートに表す。 【感受・表現】	エー1 イー1
制作 ◎中間発表会 制作 (7時間)	・イメージ画ワークシートの制作ができる。 ・段ボール紙を自分の形に切り抜き彩色ができる。 ・制作意図や途中経過を他者に説明したり、他者の発表の中から、自分の作品に生かせるアイデアを見つけ出せる。 ・中間発表会を通して受けた反省を生かし、工夫をして段ボールに彩色することができる。 ・段ボールに彩色する作業を仕上げることができる。	・制作意図や途中経過を他者に説明する。 【解釈・説明】 ・作品を鑑賞し、今後の制作に生かせるアイデアを見つけ出し、説明する。 【感受・表現】	アー1 アー2 ウー1 エー2 アー1 ウー1
設置 鑑賞 (6時間)	・全体と個のバランスを意識し、美術館の敷地に作品を飾り付けることができる。 ・社会とのつながりや、自分達の意志を再確認し、社会に出る希望や期待をもつことができる。	・自分の作品と他者の作品、また作品全体の景観を踏まえ、協調しながら構成や配置をする。 【解釈・説明】 ・学習の振り返りをし、ワークシートにまとめる。 【評価・論述】	ウー2 エー3

(道徳的視点) 4 - (8) 郷土愛

卒業を意識し社会と繋がるためのテーマを設けて制作した作品の展示と鑑賞を通して、社会に目を向け自分と学校と社会の繋がりを感ずることができる。

6. 本時の目標

クラスメイトの制作途中の作品を鑑賞し、今後の制作に生かせるアイデアを見つけ出す事ができる。

7. 本時の展開

学習活動	教師の指導	備考
<p>○あいさつ</p> <p>○本時のねらいを知る</p> <p>○発表Ⅰ（自分から他者へ発表）</p> <p>○中間発表 （他者からの学びを発表する）</p> <p>○発表Ⅱ（自分から他者へ発表）</p> <p>○まとめ</p>	<p>・あいさつ前に発表の準備をさせる。</p> <p>制作意図や途中経過を他者に説明したり、他者の発表の中から、自分の作品に生かせるアイデアを見つけ出すため、集中して頭を働かせるように伝える。</p> <p>前時にマイテーマや制作意図、途中経過や今後の構想を記載したワークシートを元に、クラス全体に向けてプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションは一人約1分間。 次の発表者は、作品を支える役を行う。 一人プレゼンが終わる毎に、質問タイムを1分弱設ける。質問者が自発的に出ない場合は、発表者がクラスメイトを一人指定して質問させる。</p> <p>プレゼンテーション時に指導者が机間巡視を行い、より学びが深まるであろうアイデアを拾った生徒を数名発表させる。 プレゼンテーションを聞いても良いアイデアに気付かなかった生徒も、クラスメイトの気付きを発表させることで、気付きの手助けとなり、学びを深める。</p> <p>前時にマイテーマや制作意図、途中経過や今後の構想を記載したワークシートを元に、クラス全体に向けてプレゼンテーションを行う。 プレゼンテーションは一人約1分間。 次の発表者は、作品を支える役を行う。 一人プレゼンが終わる毎に、質問タイムを1分弱設ける。質問者が自発的に出ない場合は、発表者がクラスメイトを一人指定して質問させる。</p> <p>本時で気付いたアイデアを次回からの制作に生かせるよう、計画や準備物をイメージさせる。</p>	<p>ワークシート 配布</p>

準備物

教員：作品、ワークシート

生徒：筆記用具

8. 結果と考察

インスタレーション活動は、飯村にとって3度目の活動となる。過去の活動は以下の通り。

2009年度 岩出中学校



根来寺境内に、各自持ち寄ったハンカチを結んで地面に設置し、鑑賞する活動を行った。

2010年 和歌山大学教育学部附属中学校



近代美術館内奥山公園に、ビニールロープを大量に張り巡らせ、音と動きで風を感じる活動を行った。

本年度の活動の写真の記録は以下の通り。

10月3日制作風景写真（4人班の活動で、段ボールで自分の実物大のシルエット型を描く）



10月10日制作風景写真（4人班の活動で、段ボールで自分の実物大のシルエット型を切り抜く）



10月25日制作風景写真（段ボールに彩色する）



11月17日インスタレーション当日の写真



作品の設置（インスタレーション）完成の写真



作品を設置（インスタレーション）した翌日11月18日、各作品の側に手作りのキャプションを配置して、作品の完成としました。翌11月19日、まさかの暴風警報発令の悪天候の雨風。そのため1週間展示する予定だったが、早々に撤収した。

本来の活動目的は設置（インスタレーション）であるため、教科としての活動は完成と言えるものの、せっかくなので1週間ほど展示して、保護者様や地域の皆さまに見て頂こうと計画していたのに、丸2日間で撤去ということになり、残念だった。

和歌山県立近代美術館さんの協力依頼ももちろんのことながら、壁面が道路に面しているということで警察署による道路使用許可依頼、また地域社会と繋がるをテーマに行ったのでマスコミへの記事掲載依頼と、学校外にも多々協力していただく活動となった。

特に初めて行う道路使用許可など、飯村自身も初めての経験もできた。

マスコミ各社に掲載依頼をし、実際わかやま新報さんに取材に来て頂き、誌面に掲載していただいた(右図)ことも、昨年度よりも飛躍した部分である。

また今回は、生徒それぞれの作品サイズが大きかったため、一斉に1クラス40人が制作する際、弊害が多々出てしまった。

段ボールを切断する際に、協力して行ったため段ボールを支えている生徒と、段ボールカッターで切る生徒との間で怪我をしてしまう生徒が出たり。

またペンキで彩色する際に生徒の体操服や上靴にペンキが着いたり、美術教室や廊下にペンキが飛散したりした。

それらの段取りに関しては、以後の大きな課題である。

また、今回の活動に関して、「面白い活動だね」「みんな個性的な作品を作って頑張っているね」など、地域の皆さまからのお褒めの言葉を、警備員や美術館の方を通じて伺った。

生徒たちも、義務教育始まって初めて最後の大規模な活動に楽しんで参加してくれていたようで、活動後の感想文にも沢山の感想が寄せられた。以下に感想文を抜粋したものを掲載する。

みんなで作品を作って楽しかったし、暴風で作品展示期間は短かったけど、作品を作ることに意味があると思うので大成功だと思いました。男子

みんなの個性が沢山出ていたとおもいます。みんなの良い所をたくさん見つけることができ、良い企画だと思いました。女子

段ボールを切る作業は大変だったけど、色を塗るのは楽しかった。今まで美術の授業で制作した作品の中で一番楽しかったし、皆で協力して仕上げ作品を地域の人々に観てもらえて良かった。男子

最初、160人近くも人型を美術館の壁に貼付けると聞いたときは、そのインスタレーションの規模の大きさにとても驚きました。制作の時間は限られていて、しかも僕は1回授業を休んでしまったので間に合う



県立美術館周辺に貼り付けられた作品

和歌山大学付属中 小学校から続く工・美術授業の集大成としての取り組みで、今回は「地域・社会へ向けて、僕たちのメッセージをアートに乗せて発信しよう!」をテーマに実施。社会に向けて自分をPRする、という思いを込めて、生徒らは自分と等身大の人型段ボールを作成してペンキで塗装した。作品は両面テープで同館の壁などに貼り付けられた。前向きなイメー

わかやま新報 4/22
和歌山大学付属中
「地域・社会へ向けて」
美術館の壁に作品展示

「この作品を作ったと能性に満ちた未来に
なってもらえれば」
という石井彩さんは「したいという思いを
と話していた。」
「成長していく中で、込めた。この作品を
24日まで展示して
空のように大きい可
見て明るい気持ちに
いる。」

か不安でした。当日、実際にみんなが貼付けた作品を観て、とても感動し、塾帰りにはいつも立ち寄っていました。男子

どうやって自分のテーマに合った作品にしようかすごく迷ったこともありました。でも、そんな迷いがあったから今の作品があるんだと思うと、すごく達成感があります。女子

飾ると自分の作品じゃないみたいに雰囲気のある作品になって、良かったです。女子

こんなに机をよごし、床をよごし、学校の廊下が汚くなるくらい大胆にインスタレーションさせてもらったのは、とても幸せでした。女子

一人一人の作品も良かったけど、みんなの作品が並ぶともっといいものが出来たと思います。美術館の中の作品に負けない程のものになったと思います。男子

設置する場所を、自分の作品に合った一番良い場所に設置できて良かったです。男子

貼り付け作業が思ったより難しかったけど、みんな貼り付けているのを観て、なんか感動しました。女子
学校の外に出て自分の作品をかざり、地域の人々に何かを伝えるという、今までの授業とは少し違って、とても楽しく取り組む事ができました。女子

テーマ通りの作品が自分的にできたので、みんなにも伝わったら良いなあと思いました。女子

作品制作は大変だったけど、いざ飾ってみると、すごく楽しくて、他の子の作品を観て、学んだりすることが沢山ありました。女子

インスタレーションは、作品を作るだけではなく、その作品をどこに配置するのも決めて、そこに配置する意味や工夫も考えながらやったので、より作品に愛着が湧きました。女子

美術館に行って、いつもは作品を観るだけだけど、キャプションを観てさらに深く作品を味わう事を経験できて良かったです。女子

初め私はとても面倒くさくて、嫌でした。けれど作品ができていくうちに、もっとこうしよう、ああしよう、と、どんどん自分から進んで作品を作り上げようとしていきました。本番では皆で協力し合い個性が光るすばらしいインスタレーションができました。女子

作品を作るだけではなく、設置する所までこだわる事ができて、とても良い経験ができました。女子

自分の思っている事や気持ちを作品に乗せることの楽しさや難しさを知ることができました。女子

インスタレーションという活動をして、美術って幅が広いなと思いました。女子

ハケを使って作品に彩色するのも初めてだったし、等身大の作品を作ったのも初めてでした。本当にこの授業では初めてが一杯で思い出に残る活動でした。男子

どんなテーマにするというところから段ボール1枚に文字を使わずメッセージを込めないといけないと言われた時、とても難しいと思いましたが、形が決まると色もどんどんスムーズに決まって行って、友達と協力したり相談したり、楽しく作ることが出来ました。女子

かなり大掛かりな準備だったけど、完成してみると壮大で、ちょっと鳥肌が立ちました。男子

私の作品をみて、地域の人々にメッセージが届いていればいいなと思います。今回のインスタレーションがいまままでの授業の中で一番楽しかったです。女子

インスタレーションは何を描いたら良いのか、どこに設置したら良いのか、全然分からず、とても難しかったです。でも切り取る作業から色を塗る作業や設置の作業まで、全部楽しかったです。男子

地域・社会のことを考えて授業するのはすごく楽しかったです。女子

私自身を大きく表現できたし、初めての体験だったので、すごく楽しい思い出ができました。私は友達4人で1つの作品を作り上げました。自分で考え始めてから自分で設置したい場所を考えるまですごく大変だったけど、最後、自分の作品ができた時の違和感はずよかったです。美術館に貼ることによって他のクラスの友達などの作品も十分に観ることができたので良かったです。ペンキが服についたりしたこともあったけど、自分が納得いく作品ができたので嬉しかったです。貴重な思い出ができて良かったです。女子